

ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議 御中

東京・生活者ネットワーク

先日いただきました東京多摩地区の有機フッ素化合物汚染についてのアンケートへの回答をお送りします。

1.

提言1について

化学物質の人体への影響を調べることは重要であり、バイオモニタリングの制度化が必要だと思います。血液検査・健康調査は非常にセンシティブな問題もあるため、実際には当事者へのフォローも含めて慎重な対応が求められます。PFAS 汚染は全国の各所で起こっており、国に対してバイオモニタリングを求めていく必要があります。東京都は、過去にはホルムアルデヒドや環境ホルモンなどについて独自の調査・研究を行ったり、化学物質の子どもガイドラインを策定するなど化学物質対策を実施してきた経緯があります。都としても積極的にPFAS 汚染問題に取り組んでいくよう求めています。

提言2について

水道水源井戸は水道局が測定・管理していますが、水道以外も含めて汚染井戸の飲用中止を徹底するためには、測定することが重要です。多摩地域の飲用井戸について都の福祉保健局は、すべての飲用井戸設置者に対して注意喚起をしていますが、水質検査は1年間に約80検体にとどまっています。

また、多摩地域には多くの湧水があり、市民が飲用に汲んでいるところも散見されています。ところが、湧水の測定は10年前に都内43か所実施されただけで、公共用水域にも地下水にも該当しないとして、測定対象から除外されています。自治体では湧水を飲まないよう注意喚起していますが、情報がどこまで届いているかはわかりません。

もっと多くの井戸や湧水の測定を実施し、PFAS 汚染の問題を知らせることが必要だと思います。

提言3について

汚染原因の調査と汚染の浄化は重要です。地下水脈はまだわかっていないことが多く、井戸の場所と深さ、汚染濃度のデータを集め分析することで、汚染源の地域を絞り込みます。さらに、汚染源を特定し、排出者責任を求め、浄化を図るべきです。PFOS・PFOAだけでなくさまざまなPFASの除去方法を確立することも重要です。そして、汚染の拡大を防ぐために汚染井戸の揚水を続け、浄化して活用するよう求めています。

2.

多摩地域は地下水が豊かで、水道水源だけでなく日本酒やビールづくりに使われるなど、活用されています。本来地下水は、降った雨が土壌の浄化作用によってきれいになり年間を通して一定の温度で飲用に適しており、多くの人がおいしい飲み水として使い続けていきたいと思っています。府中市では、トリクロロエチレンによる水道水源井戸汚染が発覚しましたが、ばっ気によって除去し使い続けています。しかし、汚染物質によっては除去しにくい場合もあります。立川市の1,4-ジオキサン汚染では水源井戸の揚水を停止しました。そして、今回のPFAS汚染です。

汚染された水を飲まないのは言うまでもありませんが、地下水の切り捨てが進んでいく事態をたいへん憂慮しています。逆説的な言い方ですが、飲み続けるために汚染を防ぐことが切実に必要と考えるからです。現在の東京都は、国の動きを待つばかりですが、PFOS・PFOA以外のPFASについての測定も求めています。

有害化学物質に対する国の対策は、事業者や経済を優先させていつも後手に回っており、規制を始める頃にはすでに汚染が広がっています。PFASは、泡消火剤だけでなくわたしたちが使っている多くの生活用品に使用されています。ヨーロッパではすべてのPFASの廃絶という動きもあると聞いています。日本でも使用禁止を検討すべきです。